

## 語るを著自

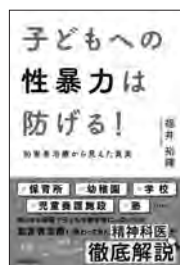
自らの言動を振り返ることが、性加害を防ぐ第一歩です

子どもへの性暴力は防げる！  
加害者治療から見えた真実

著者：福井裕輝

Hiroki Fukui

精神科医、性障害専門医療センター  
(SOMEC) 代表理事



時事通信出版局  
1980円

2022年4月に「教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律」が施行されました。対象は教員に限られますが、子どもへの性暴力対策を日本で進めていく上で大きな一步になるのではないかと考えています。

私は20年以上にわたり、性加害者についての研究と治療に携わってきました。そのきっかけは、性暴力被害に遭った子どもを診療したことです。子どもの頃の性暴力がいかに甚大な被害をもたらし、治療によって回復させることが難しいかを実感しました。そこで、

「被害者を生まないためには加害者をなくすしかない」と決意し、日本で知られていなかった加害者臨床の道に進んだのです。

すでに研究や対策が盛んに行われていた海外の取り組みを参考に、国内で加害者の治療経験を積み、加害（再犯）を防ぐことに力を注いできました。

残念ながら日本では、性暴力を防ぐ対策が現在も各方面で推進されているとは言い難い状況です。新法の施行を機に、全国的に取り組みが進められることを願って、加害の傾向や対策を解説する入門

書として本書を執筆しました。

### 教育現場で必要とされる知識

子どもの被害を防ぐに当たって、家庭はもちろん、保育所や学校など、子どもと接する環境における理解が重要です。本書では、教育現場における必須の知識として、  
①加害が起きる状況②加害を防ぐ対策③被害・加害が起きたときの対応を解説しています。  
①では、子どもと加害者の関係性に別、家族間、見知らぬ他人（SNSや街中で知り合う）、教員などの職業上の関係を取り上げてい



ふくい ひろき

1999年京都大学医学部卒業。京都大学医学部附属病院精神科、京都医療少年院、厚生労働省 国立精神・神経センターなどを経て、2010年にNPO法人性犯罪被害者の処遇制度を考える会、2011年に性障害専門医療センター（SOMEC）を設立。加害や再犯を防ぐため性嗜好（しこう）障害などの治療に取り組み、犯罪者の精神鑑定も行う。著書に『ストーカー一病』（光文社）など。

本文 PICK UP !

いつでも、どこでも、どんな人にも性暴力の被害は起こり得るのです。自分の周り（組織や地域など）は関係ないと考えると、見逃しやすくなります。（p. 109）

ます。日本では、実の親による性的虐待があまり知られていません。②では、学校などの施設において加害の起きやすい状況を回避するルール作りの必要性や、文部科学省が推進している「生命（いのち）の安全教育」をはじめとした性教育の重要性を訴えました。③では、子どもの被害に気づくための工夫などに触れています。子どもは自分が被害に遭ったと認識できていない場合でも、体調不良など何らかのサインが現れていることがある、という点はぜひ教員

の方に知っていただきたい知識です。また、子どもから被害を聞き取る際の留意点も挙げています。限られた人のみによって最少回数への聞き取りをすることとどめ、特に教育現場では基本的に詳細は専門家に任せる姿勢が大切です。まずは多くの方に基礎知識を持つていただき、子どもが相談しやすい環境を整えていくことが望まれます。

**加害は遠い世界の問題ではない**

本書を刊行して、特に反響が大

きかったのは、加害の危険度を調べる自己チェックシートです。複数の教育委員会から相談を受け、私が作成したものを一部改変して掲載しています。教員自身が確認・採点するテストで、加害につながる思考の傾向や引き金はないかなどを調べる内容になっています。規定の点数以上で自主的な相談を勧める形式ですが、実際に試した教員の方からは「規定の点数以上ではないが、自分は大丈夫なのか心配になった」という声をいただいています。不安をおおるものでは決してありませんが、自己（や周囲）の言動を振り返ることそのものが加害を防ぐ一助となるのではないかと考えています。こうしたチェックシートや研修などを通じて、身近な問題として捉えられるようになり、未然に防ぐ対策が一層推進されていくことを願っています。

BOOK